

第4学年 道徳学習指導案

1 総合单元名 かけがえのない生命

2 総合单元設定の理由

(1) 総合单元について

近年、生命を軽く見る風潮が目につく。核家族化が進んだり、医療体制が整ったことで、子どもたちが死という現実と直面する機会が少なくなったことも一因と言われている。生命の大切さを再認識させるような体験が日常的なできごとではなく、めったに起こらないことから、起こったときには大きな衝撃を伴う。こういうことはあまり起こらないだろうという安心感が大人にも子どもにもあるように思える。

子どもたちの命についての言動は、命を大切にしようとするのとは逆のことで目につくことが多い。たとえばちょっとしたことで「命かけてもいい。」という言葉を目にする。また、遊んでいても平気で危険な行動をとっている。しかし、子どもたちはさまざまな情報などから「生命の大切さ」を知識としては理解している。「命は大切だ」「一つしかない」「なくなったらもどってこない」「どこにいても売っていないし、買えない」と言う。だからといって、それがいつも十分に意識されているというわけではない。また、「命を大切にしよう。」と言われるけど、命って体のどこにあるのかなあ。」とか「命は体の中で一番大切なもの。」とかいうように、命は体の中の一部であるというようにとらえている子もいる。

このような子どもたちに、生命について理解させ、その価値に気付かせるには、まず、自分の生命の価値に気付かせていくことが大切である。本総合单元を通して、生命の有限性、連続性、関係性をおさえ、日常のできごと一つ一つが生きている証であること、よりよく生きることの根底を支えるものとして生命の存在があることに気付かせたい。そしてそれが、「生命あるもの」すべてに発展することも合わせて期待し、本総合单元を設定した。

(2) 单元構成について

4年生の重点目標は、「生活を支えてくれる人々に感謝し、家族や地域に役立とうとする」「生命の尊さやかけがえのなさを感じ取り、生命あるものすべてを大切にすること」である。各学期の総合单元を次のように配置した。

1学期の総合单元「みんなのために」は、新しく始まった委員会活動や北村公園の清掃、学級の当番や係活動を通して、みんなのために働く自分も快く感じることに気づき、家庭でも学校でもみんなのためになることを進んでしようとする意欲をもった。そして、生命について考えるとき、みんなのために働けることも生きている証であると考えることができた。2学期は、さまざまな生きている証を考えることから、生命について自分なりの考えをもち、身体の健康や安全について考えるとともに、すべての生命の大切さについて考える「かけがえのない生命」を設定した。さらに、3学期の「信じ合い支え合う」では、総合発表会や音楽会などの体験を通して、互いに思いやり、支え合いながら生きていることを考える。

单元を展開する過程で、身の回りの動植物の生命現象や自分自身のかけがえのない生命を感じ取り、次にすべての生命の尊厳を意識するというように、生命についての見方を広げ、生命の尊さをより強く感じとらせたい。体験活動、道徳の時間、総合的な学習の時間などに関連させ、自分自身の生命のみならず、すべての生命の大切さを自分とのかかわりにおいて考え、言葉だけではなく、実感としてとらえることができるようにしたい。

また、常時指導においても生きていることのすばらしさを感じ取ることができるような機会を多くしていく。たとえば朝の読書の時間では、生命の大切さに触れるような本を選定して読み聞かせをしたり、日記のメッセージにも生命に関することを記したりする。

このように道徳の時間と体験活動、そして毎日のあらゆる場面を通して、子どもたちの心の中に「かけがえのない生命」という意識を常にもたせるようにし、生命を尊重していこうとする態度を養ってきたい。

3 総合単元の目標

生命は受け継がれているものであり、一人一人がかけがえのない生命と人格をもっていること、そしてまわりの人々から支えられて生かされているということを実感させ、自分や他人の生命を大切に、前向きに生きようとする態度を養う。

4 学習計画

かけがえのない生命

総合単元名

総合単元における意識の流れ

I 気付く
○自分を見つめ、生命について意識して行動しようとする心情を育てる。

II 見つめる
○自分の生活を振り返りながら、生命あるすべてのものを大切にしていこうとする意欲を高める。

III よりよく生きる
○すべての生命の尊厳を意識して行動できるようにする。

4年1組	10月28日	11月4日	11月10日	11月18日(本時)	11月25日
4年2組	11月10日	11月18日(本時)	11月24日	11月30日	12月1日
主 題	動物を救え	命を守る	みんなで生きる	家族の協力	命の大切さ
資 料 名	イルカを助けろ	Uターン	神戸のふっこうはぼくらの手で	1さつのノート	お母さんなかないで
出 典	「道徳」 県副読本	「道徳」 県副読本	「道徳」 県副読本	教師自作	「道徳」 県副読本
内 容 目 録	3-(1) 動植物愛護	3-(2) 生命尊重	4-(2) 勤労	4-(3) 家族愛	3-(2) 生命尊重
心 の ノ ー ト	10月5日 (総合的な学習) p54・55	10月26日 11月9日 (学活) p56～59	11月8・16日 (朝の活動) p66・67	11月16・25日 (学活) p76・77	

一つの花
10月11日～
(国語)

ぼく
11月1日
(国語)

親子ふれあい遠足
10月23日
(行事)

へちまの
たねとり
11月2日(理科)

育ちゆく体
とわたし
11月2日(体育)

生命をみつめて
9月6日～
(総合的な学習の時間)

生き物の命
9月27日

かけがえの
ない生命
10月18日

10才のわたし
11月1日～

生命をみつめて
12月5日

常時の活動 ・朝の読書・読み聞かせ・今日のできごと(帰りの会)
・友達の良いところ・委員会活動 ・学級の係活動

家庭・地域での活動 ・家庭や地域の一員としてできること
・心のノートの話し合い
・家庭や地域の人からのメッセージ

子どもの意識・実践の様子・評価

道徳の時間 心のノート
 教科等 常時 体験活動 ○めあて ●評価

	子どもの意識	学校・家庭・地域で生かす
I 気 付 く	<p>「ハッピーバースデー」「おかあさんの木」 「君たちの重さは命の重さ」 (朝の読書) (読み聞かせ) 9月21日～ ○読み聞かせをすることにより生命について考えることができるようにする。 ・わたしたちの重さは命の重さだということがわかった。 ・生まれてきてよかった。 ・生きていることで周りの人を幸せにしていることがある。</p>	<p>「生き物の命」(総合的な学習) 9月27日 ○動植物の命について調べ、互いに発表し合う中で、自分と同じように命を大切にしていこうとする気持ちをもつ。 ・植物や動物は生活に欠かせないものだ。 ・自分たちも動植物を大切にしなければいけない。 ●動植物や自分たちの命を大切にしていこうとする気持ちをもつことができたか。</p>
	<p>心のノート (総合的な学習) 10月5日 「人びとは、植物や動物といっしょに生きてきた」 p.54・55 ○動植物の命も大切にしようとする気持ちをもつことができる。 ・種ができるのは生きているからなんだね。 ・人や動植物は心を通わせながら生きているよ。 ●動植物も大切にしていこうとする心情が高まったか。</p>	
	<p>「一つの花」(国語) 10月11日～ ○戦争という大きな流れの中で生きた人びとの様子から命について考えるとともに、親が子を思う心や美しいものを喜ぶ人間らしい心を見つめる事ができるようにする。 ・戦争は大切な命をうばってしまう。 ・お父さんやお母さんの心は、ずっと残って受け継がれている。 ●命の尊さや、家族愛について考えることができたか。</p>	
II 見 つ め る	<p>「かけがえのない生命」(総合的な学習) 10月18日 ○ゲストティーチャーの話から、生命は有限であることを理解し、生命の大切さに気付くことができる。 ・ずっと続く命があればいいなあ。 ・みんなの命を守ろうとしてくれている人が、わたしたちの回りには、たくさんいる。 ・命を大切にしていこう。 ●なぜ生命が大切であるかについて自分なりの考えをもつことができたか。</p>	<p>「親子ふれあい遠足」(行事) 10月23日 ○家の人といっしょに行動し、班の友達や家族と楽しく過ごす。 ・家の人に来てくれてうれしいなあ。 ・お弁当を作ってくれたよ。今度は自分も手伝おう。</p>
	<p>資料名「イルカを助けろ」(道徳) 10月28日・11月10日 ○動植物や自然のもつすばらしさに気づき、進んでそれらを大切にしようとする気持ちをもつことができる。 ・イルカを助けたいという気持ちはだれにでもあることだな。 ・失敗してもあきらめずにイルカの命を考えて救ったのは、えらいな。 ●自分も動植物を大切にしようとする気持ちももてたか。</p>	<p>心のノート (家庭) 10月26日 「生きているってどんなこと」 p.56・57 ○生きていることについて家の人と話し合い、生きていることの素晴らしさに気付く。 ・ご飯を食べるとき ・友達やみんなの笑顔を見たとき ・あなたがいてくれるだけでいいと言われたとき ●家族と話をすることができたか。</p>
	<p>「ほく」(国語) 11月1日 ○小さくてもかけがえのない存在である「ほく」に気付かせ、自分の存在・互いの存在への思いを深める。 ・自分はこの世の中では小さな存在ではあるけれど、たったひとりしかいない。 ・自分の代わりになるものはいないから、自分自身を大切にしなければ。 ●自分の存在が価値あるものであることを考えることができたか。</p>	

「10才のわたし」（総合的な学習） 11月1日～
○10年間生きてきたことがどんなにすばらしいかを感じ取ることができる。
・危険な目にあったけど生きていてよかった。
・これまで生きてきたのは家の人のおかげだ。これからも命を大事にしていこう。
●生きていることのすばらしさを自分なりに感じ取ることができたか。

育ちゆく体とわたし（体育） 11月2日
○生命の大切さに気づき、進んで健康や安全に気をつけて生活しようとする。
・成長は一人一人ちがうんだな。
・命を大切にするために、体の成長にも気を配ろう。
●大きくなるまでの体の成長を生命という観点からもとらえ、健康や安全に気をつけて生活しようとする気持ちが高まったか。

資料名「Uターン」（道徳）11月4日・18日（2組 本時）
○命の尊さを知り、生命を大切に考えて行動しようとする気持ちをもつことができる。
・命を守るためには、がまんしなければならないこともある。
・命はたった一つしかない大切なものだから、みんなで守っていこう。
●たった一つの命を失わないようにしようという思いをもつことができたか。

資料名「神戸のふっこうはぼくらの手で」（道徳）
11月10日・24日
○力を合わせて仕事をする大切さを理解し、きまりを守ってみんなのために進んで働こうとする。
・友達や大人に頼ってばかりではいけない。
・何ができるか考えて実行することが大切なんだな。
●人のために働こうとしているか。

資料名「1さつのノート」（道徳）
11月18日・30日（1組 本時）
○家族が支え合っていることに気づき、感謝の気持ちをもって協力して生活していこうとする。
・家族みんなががんばって赤ちゃんが元気に育った。
・自分も家族とともに、できることをがんばろう。
●自分も家族とともにがんばろうという思いがもてたか。

資料名「お母さんかないで」（道徳）11月25日・12月1日
○命の大切さに気付き、進んで健康や安全に気をつけて生活しようとする。
・まさこさんの死をむだにしないよ。
・無茶なことはしないで命を大切にしよう。
●一瞬のうちに命をなくすことがあるということを理解し、回りの人も悲しませるということにも気付くことができたか。

へちまの種取り（理科） 11月2日
○1つの種からたくさんの種ができることを理解し、植物の命の連続性について考える。
・たくさんの種がとれた。
・この種からまた次の実がなって種ができるんだね。命はつながっているんだなあ。
●命のつながりに目を向けることができたか。

心のノート（朝の活動） 11月8日・16日
「やくそくやきまりを守るから仲よく生活できる」 p.66・67
○みんなが気持ちよく過ごせるために自分たちにできることを見つけてしようとする。
・きまりを守って安全に生活しよう。
・みんなが気持ちよく過ごせるために協力しよう。
●やくそくやきまりを進んで守ろうとしているか。

心のノート（学活） 11月16日・25日
「わたしの大切な家族」 p.76・77
○日々の生活を支えてくれている人々の苦勞に気づき、それらの人に対して尊敬し感謝する。
・支えてくれている回りの人に感謝しよう。
・自分もできることをしなければならぬ。
●命を守ってくれている人に感謝の念をもつとともに、自分自身も加わりうとする気持ちの高まりがあったか。

「生命をみつめて」（総合的な学習）
12月5日
○生命を大切にしていこうという気持ちをもって、自分の考えをまとめて発表する。
・一人一人の命について考えることができた。
・生きているものすべてに命があって、それを守っていくのは自分であると気付いた。
●生命あるものすべてを大切にしようとする心情をもつことができたか。

(1) 主題名 家族の協力

(2) 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

4-(3)	父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。
-------	-----------------------------------

家族が仲良く、日々の生活を楽しく過ごしていくためには、お互いの協力が不可欠である。しかし、同じ家族であるという気持ちから、時として相手に甘えてしまったり、本来は自分の役目であるにもかかわらず、十分に果たさなかつたりしてしまうこともある。

家族を互いに尊重し合うとともに、家庭生活に積極的にかかわろうとする態度を育てたい。そして、そのことを通して、自分も家族の一員であり、みんなで協力し合うことによって楽しい家庭をつくっていかうとする姿勢ももたせたい。

〈子どもの実態〉

子どもたちは家族の一員として、それぞれの家庭でそれぞれの役割を担って生活をしている。どの子どもも家族を思いやったり、家族のために働いたりすることは好きである。家族で話し合って、自分の役割を決めて、毎日手伝いを欠かさずにしている子どももいる。しかしその反対に、朝は起こしてもらい、時間割を手伝ってもらい、忘れ物をしたら届けてもらい、帰りは車で迎えに来てもらうという、まさに家族に頼りきった生活をしている子どももいる。その中に少数ではあるが、その生活を当然のように思い、家族に感謝をするわけでもなく、何かの都合で自分が思うようにしてくれない場合には、不満を漏らす子どももいる。

そこで、子どもたちに家族の一員としての自覚をもたせ、他の家族が自分のためにしてくれている様々な行為に気づき、感謝できるようにしたい。また、自分も家族のために、自分にできることを進んで行い、楽しい家庭をつくっていかうとする意欲を高めていきたい。

〈資料について〉 1冊のノート（教師自作）

本時で用いる資料「1冊のノート」は、教師自身が実際に経験した出来事を元にして作成した。説話の概要は次の通りである。

生まれたばかりの赤ちゃんが気管支炎にかかって入院をする。母親が中心となって看病にあたるが、それを支えるために家族や、親戚が協力をしたり、家庭に残っている幼い兄弟たちの養育にあたりたりしたという話である。総合単元「かけがえのない生命」の中の1つの資料として用いられているため、家族愛に焦点をあてながらも、生命ということにも意識を向けさせたい。

家族が1つの目標に向かって、互いに自分のできることで協力している。親戚のおじいちゃんやおばあちゃんまでそれに加わって協力しているという姿から、自分も家族に守られたり支えられたりしてここまで育ってきたことに気付かせたい。そして、これからも家族の一人として暮らしていくためには、自分もその一員として協力し、楽しい家庭をつくっていかうとする気持ちをもたせるようにしたい。

(3) ねらい

家族が支え合っていることに気づき、感謝の気持ちをもって、協力して生活していかうとする態度を養う。

(4) 展 開

□指導上の留意点 ●評価 ()評価方法

学 習 活 動	主な発問と予想される子どもの意識	指導上の留意点と評価
1 1冊のノートを見て、本時の学習について知る。	○ これは、何のノートだと思いますか。 ・何の記録なんだろう。 ・数字がノートいっぱい書かれている。 ・夜中の時間も書かれている。	□古びた1冊のノートを見せることで、学習への興味付けを図る。
2 教師の説話を聞き、家族の協力や支え合いについて考える。 ・赤ちゃんを看病するお母さんの気持ちから ・看病を支える家族の気持ちから ・退院時の家族の気持ちから	○ お母さんたちはどんな気持ちで看病をしたのだと思いますか。 ・早くよくなってほしい。 ・これ以上病気が重くならないようにしたい。 ・自分のことより、赤ちゃんの方が大事。 ○ お母さんの看病を手伝うために、家族や親戚の人は、どんな思いで協力をしていたのでしょうか。 ・お母さんもがんばっている。 ・みんなと一緒にがんばろう。協力しよう。 ・家族のために自分もできることをしよう。 ○ 退院したとき、家族はどう思ったでしょう。 ・うれしかった。 ・がんばってよかったと思った。 ・もう2度と病気になってほしくない。	□教師の体験であることを話し、対話をしながら進める。 □資料や写真などを提示しながら話す。 ●説話に共感して聞くことができ、自分の考えを話すことができたか。(発言) □家族の思いが十分に伝わるように話す。 □家族の喜びから、お互いに支え合うことについても考えさせる。
3 説話を聞いて思ったことを話し合い、自分たちの家庭生活を振り返る。	○ 家族のためにしていることはありませんか。また、家族のだれかからしてもらったり、家族みんな協力していることはありませんか。 ・先生の家族は、赤ちゃんのためにがんばったんだなあ。みんな協力してすごいなあ。 ・私も病気になったとき、家族が交代で看病してくれたよ。 ・ほくも家族のために、毎日妹のお迎えにいらるよ。 ・お母さんが病気の時、家族で看病をしたり、家事の手伝いをしたよ。	□家族に対する感謝の気持ちをもてるようにする。 □説話に対する感想にとどまるのではなく、自分たちの生活について考えるように導く。 ●自分の生活を振り返り、意見をもつことができたか。(発言)
4 本時のまとめをする。	○ 赤ちゃんのその後の話を聞く。	□家族で協力し、支え合うことのよさを感じ、自己の課題を解決していこうとする意欲をもたせる。

(1) 主題名 生命を守る

(2) 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

3-(2)	生命の尊さを知り、生命あるものを大切にする。
-------	------------------------

日常生活を支えている根本は、生命である。生命があるからこそ、日々の生活を送ることができる。そのことは、わたしたちにとってあたりまえのことで、病気になったり事故にあったりしない限り、生命や健康の尊さに気付いたり考えたりする機会は少ない。また、子どもたちは、身近で現実の人間の生死を経験することもほとんどない。中学年期には、現実性を持って死を理解できると言われている。生命の最も本質的な特色は、それがただ1回限りのものであるということにある。生命あるものすべてにとって、生命が何より大切なかけがえのないものであることをしっかり自覚させなければならない。危険から身を守り、自他の生命を大切にしようとする心情を育てていくことも重要である。

〈子どもの実態〉

子どもたちは、だれもが生命は大切なものであると思っている。ニュースで生命にかかわることを見聞きしたり危ない目にあったりした時などには生命について考えると言うが、言葉と行為が一致しない場合が多い。自転車での飛び出し、狭い場所でのふざけ合い、体調がすぐれないが、体育は好きだから休まないなど、一歩間違えば、大きな事故につながったり、生命にかかわる事態を引き起こしてしまったりする危険な行為が見られる。

飼育している生き物の世話が不十分で死なせてしまったときや遊びに熱中して思いがけずけがをしてしまった時などには、自らの行為を反省する。しかし、自分の行為の結果が、生命を大切にすることにつながると関連付けてとらえることはできていない。何かをするとき、「やりたいから」とか「楽しいから」とかいう、その場の気持ちで行動してしまうことが多く、その行為の結果どうなるのか、自分の命を守るためにはどうすればよいのかということにまで考えが及んでいない。

そこで、自分たちの生きてきた十年間を振り返り、生きていることのすばらしさを感じ取らせたい。そして、これからもずっと生きていくためには、自分の行為を選択し決定する過程において、まず生命尊重ということを最優先させることが大切であることを理解し、実践できるようにさせたい。

〈資料について〉 Uターン (県副読本)

家族みんなで待ちかねていたキャンプに行く途中のこと。小さな崖崩れを見つけた父は、引き返す決心をする。みんなの返事を聞かずに車をバックさせた父に対して、主人公は反発する。しかし、やがて父の決意が、家族みんなを危険から守るための行為であったと気付いたとき、父の「家族の命を守る」という思いにも気付く。そして、「命はひとつ」という言葉を家族でかみしめることになる。

ここでは、主人公よしおの気持ちの動きに共感させながら、命を守ることについて考えさせたい。自分が気付かないうちに、回りの人々によって守られている命、そして、今まではあまり気にかけていなかった命の大切さをしっかりと見つめさせたい。今生きているのは、自分も回りの人も命を大切にしているからだということに気付き、自分の命は自分で守り、すべての命を大切にしようとする心情を育てたい。

(3) ねらい

命の尊さを知り、生命を大切に考えて行動していこうとする心情を育てる。

学 習 活 動	主な発問と予想される子どもの意識	指導上の留意点と評価
1 写真を見て話し合う。	○ 写真を見て、どんなことを感じましたか。 ・キャンプの写真 ・釣りの写真	□資料にかかわる写真を提示する。
2 資料「Uターン」を読み、話し合う。 ・つり糸を投げるかっこうをしているよしお ・バックを始めたお父さんを見たよしお ・ドライブインでのよしお	○ よしおは、どんなことを思いながら車中でつり糸を投げるかっこうをしたのでしょうか。 ・大きな魚をたくさんつりたい。 ・楽しみにしていたつりがやっとなでできるぞ。 ○ お父さんが「引き返そう」と言ってバックを始めたとき、よしおはどう思ったのでしょうか。 ・楽しみにしていたつりができなくなる。 ・まだ崖崩れというほどではないのに心配しすぎだ。やめなくてもよかったのに。 ○ ドライブインでのよしおや家族はどんな気持ちだったのでしょうか。 ・行ったら、行けたかもしれない。 ・つりは何回でもできる。 ・お父さんが命を守ってくれた。 ・もしかして、崖崩れに巻き込まれていたかもしれない。命は一つなのだから大事にしなければ。 ・命が大切だ。引き返しても仕方ない。	□様子を思い描きながら、よしおの気持ちに共感できるようにする。 □自分の経験を思い出させながら、楽しみにしているよしおや家族の気持ちを強調する。 □父に反発するよしおの気持ちをしっかりととらえさせる。 □崖崩れの写真を提示し、父も迷っていたかもしれない、引き返すのも仕方がないと納得していくよしおの気持ちの変化にせまる。 □「命は一つ」ということの意味を自分なりの言葉でまとめられるように助言する。 ●どんなときでも生命を守ることを最優先しなければならないことに気づくことができたか。 (発言・観察)
3 自分たちの生活について振り返り、生命の大切さについて考える。	○ 命を大切にしなければと感じたことはありますか。 ・危ないことをしてけがをしてしまった。 ・飼っている動物が死んでしまった。 ・家族が見守ってくれている命なので、大切にしようと思った。	□自分の経験したことなどから生命についての思いを広げられるようにする。 ●自分なりの思いで生命の大切さを感じ取ることができたか。 (発言・観察)
4 教師の話を聞く。	○ あるお母さんから、みなさんへのメッセージです。聞きましょう。	□生命を大切にしてほしいという家の人の気持ちが伝わるようにする。